

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270300033		
法人名	有限会社 グループホームふるさとの家		
事業所名	グループホームふるさとの家「城下」	ユニット名	
所在地	長崎県島原市新湊二丁目丙1740番地2		
自己評価作成日	平成29年12月25日	評価結果市町村受理日	平成31年2月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

今までの生活歴を全職員が十分に把握し、その方に合った日常生活を送っていただき自由な時間を過ごしていただきます。毎月の活動としては、音楽療法や和太鼓練習、大人の学校などに参加されたり、その他ドライブや散歩など潤いのある生活を楽しんでいただけるよう支援させていただいております。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://ngs-kaigo-kohyo.pref.nagasaki.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般財団法人 福祉サービス評価機構		
所在地	福岡市中央区薬院4-3-7 フローラ薬院2F		
訪問調査日	平成31年2月6日	評価確定日	平成31年2月19日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「有限会社 グループホームふるさとの家」は開設20周年を迎えている。代表、専務、施設長、管理者等のお人柄もあり、長く勤務する職員も多く、新しく入社された職員を温かく迎え入れ、職員個々の良さや可能性を引き出している。「グループホームふるさとの家「城下」」は23年に新築移転しており、「子どもシティ「城下」」を含めて系列事業所も増えている。「老いても障害を持って、当たり前に分らなく普通に暮らしたい。」という理念を大切に、子ども達との交流を楽しみ、「音楽療法」「和太鼓練習」「おとなの学校」等に参加される方もおられる。重度化している方々が増えている中、「梅干し作り」「干し柿作り」「饅頭作り」「お花の苗植え」「ねぎの栽培」など、ご利用者個々のお力が発揮できる活動を増やしてこられ、お弁当を持参し、ドライブや花見などにお連れしている。1日と15日は赤飯やお刺身があり、各種行事の時はバイキング形式等にして、ご自分で選んで頂いている。今後もご利用者の「有する能力」の把握と共に、ケアの手順書や留意点などを計画に追記し、日々実践していく予定である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を施設内に掲示し、毎朝声に出して確認するようにしている	「老いても障害を持っても当たり前に分らしく普通に暮らしたい」と言う理念を大切にされている。新人職員にも、「当たり前」に暮らすとは“等を問いかけて、考えてもらう機会が作られている。ご利用者の生活歴やお好きな事(花植え、野菜作り等)を把握し、入居後も継続できるように努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常の挨拶を交わしたり、市民清掃・回覧板を通じての施設行事への参加の呼びかけや地域行事への参加にて交流している	ご利用者も安中地区の避難訓練に参加している。八幡神社のお神輿がホームに来て下さり、ご利用者もお賽銭を入れている。ご利用者も一緒に地区の運動会の応援、地区のお祭り、鬼火に参加しており、中学生の職場体験や合唱部も来荘して下さい、楽しいひと時を過ごされている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	おとなの学校を毎週日曜日に行っており、外部からの利用も増えてきている。今後地域の方の利用にもつながればと思う		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二か月に一回開催しており、利用者状況や行事などを報告したり、地域や行政との情報交換を行っている	地域の方々にホームの取り組みを理解して頂き、色々なご意見を頂いている。災害対策も話し合い、「地域で防災グッズを購入した」等の情報交換も行われている。「城下祭りを楽しみにしている人が多く、回覧板で回しても良いと思う」などのアドバイスも頂いた。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	定期的に関行される学習会や会合を通じて協力関係を築くよう心掛けている	専務や施設長、管理者等が行政(支所)を訪問している。島原市に祭りの駐車場の相談した時も、親身に対応して下さい、祭りの午前中に市の担当者が避難方法の講和をして下さった。島原市GH連絡協議会の運営に携わり、研修担当の役職も担っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全職員で身体拘束をしない様取り組み法人内や外部研修に参加し、正しく理解してケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会や勉強会を続けている。「心のゆとり五か条」も大切にされており、“身体拘束の無いケア”に取り組まれている。不安が見られる方には日々寄り添い、外出希望が聞かれた時は散歩やドライブ等にお連れしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	委員会を中心に些細な事でも虐待につながっていないか話し合い防止に努めている		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会の参加にて学ぶ機会を持ち、現在1名の方が利用されている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明を行い理解納得を図っている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に様子や気づきを尋ねるようにしている。また、面会者名簿に記入欄を設けている	代表から職員に「家族の意見を大切に」と伝えており、職員も面会時などに家族の想いを傾聴している。新聞を2か月に1回、職員の手紙は毎月郵送し、日々の暮らしぶりを報告している。家族の方々を行事に招待し、家族も踊り等を披露して下さった。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日の会議等で提案や意見を検討し把握している	施設長や管理者のお人柄もあり、相談しやすい関係が作られている。職員向けのアンケートも行われ、職員の希望で職員旅行も楽しまれている。毎月、代表と面談する機会もあり、職員の意見は役員会で話し合い、働きやすい職場になるように努めており、勤務希望や研修希望も叶えている。	幅広い年齢層の職員が勤務しており、職員個々の育成支援を強化されている。今後も職員個々の年間目標を掲げる機会を作り、必要な研修参加や、内部研修の内容の検討に活かしていく予定である。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	常に職員とのコミュニケーションを大切にされ、向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努められている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修計画に沿って事業所内外の研修の機会が確保されている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	親睦会など交流の場を作って下さりサービスの質の向上に図っている		

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	信頼関係が築けるようコミュニケーションを大切に、安心していただけるケアに努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	信頼関係が築けるよう不安な事要望等真摯に聞くようにしている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	要望を聞き今必要とされていることをに気付けるように努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	その方の生活歴などから出来ることを見つけ教えてもらっている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事への参加やお手紙での状況報告、健康面などご家族へ連絡して支援する関係を築いている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	自宅を見に行ったり近くへドライブや墓参りなど支援している	馴染みの場所は“山”と言われる方が多く、筍掘りや山菜採り、雲仙の紅葉見物や八幡神社等にお連れしている。お孫さん(美容師)が散髪に来て下さったり、家族や友人等の訪問もあり、一緒に写真を撮り、部屋に飾られている。職員とお墓参りに行かれたり、馴染みのお店にお連れしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者間の関係を把握し孤立せず関わり合い支え合えるよう支援している		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も必要に応じて相談や支援に努めている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	その方との会話の中で希望や意向を尋ね把握したり又、表情などでくみ取っている。	ご利用者に寄り添って表情を観察したり、日々の会話を通して思いの把握に努めている。日中の活動の中で興味がある事を把握できるように努め、各活動の要望も伺い、「買い物に行きたい」「家に帰りたい」等の願いを叶えている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	基本情報やその方との会話の中、又はご家族に尋ね把握に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送りや施設計画実行表などで把握し注意深く観察している		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・ご家族に要望などを尋ね、今何が課題なのかを担当者を中心に話し合い介護計画を作成している	洗濯物たたみや茶碗拭き、外出等も盛り込み、4表(日課表)も作成している。転倒予防のための機能訓練等も盛り込み、音楽療法や瑞宝太鼓、「おとなの学校」等の参加も記入している。日々の記録に計画を記入し、担当職員を中心に全職員でケアの振り返りをしている。	今後もADL(寝返り・立位・歩行等)、IADLの有する能力を記載すると共に、「できそうな事」「介助理由」「目標」「解決策」等の記録を増やす予定である。日課表に「できる事」「留意点」を追加していく予定である。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	施設計画実行表にその日の様子を記録し職員間で情報を共有しながら実践している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	病院受診や美容院への送迎など家族のニーズに対応している		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	必要に応じて支援している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医を基本としている。又その人に合った適切な医療を受けられるよう支援している	内科(2月に1回)と歯科の往診がある。24時間体制で代表、主治医、ホームの看護師に相談でき、夜中も往診して下さる。緊急時は管理者と看護師が受診同行し、医師、家族、職員と情報交換している。今後も介護計画に医療面の留意点を追記していく予定である。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	少しでも異変があれば連絡を行い、指示を仰いでいる。受診が必要であれば速やかに主治医へ連絡を行い受診している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	情報提供を行い、安心して治療がうけられるよう医師や看護師に相談している		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りに関する指針を作成し契約時に説明同意を得ている。また、主治医に意向を伝え協力を仰いでいる	「最期までここで」等の希望を伺い、24時間体制で主治医と連携できる。ホームの看護師にも相談でき、急変時も駆けつけて下さる。病状変化に応じて、主治医、家族と話し合い、「安楽な生活」「緩和ケア」等の希望を伺っている。ご本人のお好きなもの「モズク」「甘酒」「家族手作りのプリン」等を食べて頂いており、家族も介助して下さる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時のマニュアルを作成しいつでも見れるようにしている。また、研修等で実践できるよう身につけている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	消防署や地域消防団、住民の方との避難訓練を行っている。毎日自己点検を行い災害など起こさないよう取り組んでいる	島原市GH連絡協議会で災害時の協定を結んでいる。昼夜想定で自主訓練(年6回)を行い、年2回は消防署、消防団、地域の方と4棟合同の避難訓練を行っている。各棟の代表(男性職員)が災害対策を毎月検討しており、災害に備えて防災頭巾も購入し、災害バックや独自の持ち出し品なども準備している。ご利用者の各居室の入口に歩行や車いすなど移動手段を絵で張っており、避難誘導がしやすい環境作りをされている。	

自己	外部	外部評価		
		自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	尊重し声掛けに十分に注意している	優しく穏やかな職員ばかりで、島原の方言を使い、声の強弱やトーン、話す早さに注意している。ご利用者と話す時は親身に聴き、1人1人に応じた声かけをしている。職員個々の感情が利用者の行動に影響するので、常に落ち着いて対応するように努めている。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	言葉かけを工夫し自己決定できるよう声かけている。又自己決定が困難な方は表情でくみ取っている	
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その方のペースに合う様に心がけているが時と場合によってはこちらの都合になっているのではないかと反省もある	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服装など好みを尋ねたり一緒に決めることもある。又、行事の時はお化粧をして出かける時もある	
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	1日15日は赤飯やお刺身があり、行事食を職員と共に楽しんでいる。配膳等も手伝ってくださる。	調理担当の方が3食手作りされている。ご利用者も下ごしらえ(皮むき)、味見、食器拭き、テーブル拭き等を手伝って下さる。七夕、節分などの行事食も生まれ、誕生日には手作りのケーキでお祝いしている。嚥下状態に応じて食事形態を変えており、今後も最適な食事介助の方法を検討予定である。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量をチェックして把握している	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時や毎食後、その方に合った口腔ケアを行っている	

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を活用し排泄パターンを把握し、早めのトイレ誘導を行っている	車いすを利用する方も多く、2人介助でトイレに移乗する方もおられる。尿意・便意を把握し、排泄チェック表に記入し、パッド使用の有無も職員間で検討している。昼間に排便できるように支援しており、夜は安眠できる方が多い。今後も「自立支援」の視点で、布の下着の可能性も検討予定である。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便表を活用し把握している。食物繊維の多い食材の活用、乳製品を摂ってもらったり、十分な水分補給や体操など取り組んでいる		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	毎日好きな時に入って頂けるようにしている。個人に合った入り方で無理のないように頂いている。	湯温の希望などを確認している。入浴時は普話をして下さり、歌も聞かれ、柚子湯や菖蒲湯も楽しんでいる。立位が困難な方もおられ、安全に配慮しながら2人介助で湯船に入られており、今後ご利用者に応じた福祉用具(シャワーチェア等)の検討を続ける予定である。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	横になりたい方は自由に休んでいただいている。夜間安眠して頂けるよう活動的に過ごして頂いている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬管理表を作成し、全職員がいつでも確認できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の楽しみな事を把握し梅干し作り、干し柿作りなど支援した。また足湯マッサージなど支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節を感じていただけるようなドライブや雲仙への温泉卵作りなど頻繁に出かけた。	周辺の散歩と共に、系列施設で音楽療法や瑞宝太鼓等をされたり、気候が良い時は毎日外出されている。花見(桜、つつじ、秋桜、紅葉など)や舞岳にお水汲み、買い物等にお連れしており、外食(幸楽)時は、ご利用者の希望する物を事前に注文し、お店に到着時にすぐに食べられるようにしている。雲仙や小浜の足湯も楽しんでいる。	

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物支援は行っているが、基本的にお金はおご家族にお願いしている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があればいつでもできるように支援している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を飾ったり、その月の行事など分かる飾りつけを一緒に行っている。常に温度・湿度に気を付け心地よく過ごせる様支援している	日本の良き風情を残し、トイレの戸や食器棚も木目調であり、対面キッチンからリビングと和室を見渡す事ができる。リビングにシンクを増設し、食器洗い等で活用している。ご利用者個々の椅子があり、背もたれ等も個別に調整できる。リビングの神棚の水替えとお花の水替え、日めくり等が日課になっている方もおられる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う利用者同士が隣同士になるように誘導している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自分で使用されていたものを持ってきてもらっている。又家族の写真などを飾り心地よく過ごして頂くよう支援している	和室(4つ)と洋室(5つ)があり、和室は畳に布団を敷かれる方やベッドを利用する方もおられる。和室の窓は障子であり、落ち着いた空間になっている。家族の写真を飾られたり、居室でラジオを聞かれる方もおられ、換気を行い、温湿度の管理も行われている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーで各場所に手すりの設置、トイレや洗面所がわかりやすいように大きく書いて掲示している		